医療・看護・介護従事者部門受賞者

樋口 秋緒

社会医療法人北晨会 恵み野訪問看護ステーション「はあと」所長

訪問看護での特定行為の先駆者として地域包括ケアの質向上に貢献

樋口 秋緒
Akio Higuchi

社会医療法人北晨会
恵み野訪問看護ステーション
「はあと」所長

1985年、聖ヨゼフ看護専修学校准看護師科卒業。1987年、聖ヨゼフ病院内科病棟勤務。同年、東京都立青梅看護専門学校進学コース卒業、看護師免許取得。1989～94年、順天堂大学医学部付属順天堂医院心臓血管外科ICU勤務。1996～2000年、北晨会恵み野病院循環器病棟勤務。2002年、北海道立衛生学院保健婦科卒業、保健師免許取得。2001～04年、保健師として恵み野病院医療相談室配属し退院調整に携わる。2004年6月、恵み野訪問看護ステーション「はあと」開設。管理者として現在に至る。2007年、社会福祉士免許取得。2015年、北海道医療大学大学院プライマリ・ケア分野NP(ナース・プラクティショナー)コース修了。看護学修士。

推薦者 | **坂本 すが** 東京医療保健大学 副学長
久常 節子 元社団法人日本看護協会 会長

訪問看護師としての矜持

樋口秋緒氏が所長を務める恵み野訪問看護ステーション「はあと」は、恵み野病院(北海道恵庭市)を退院後、ドレーンやカテーテルが留置されているなど、医療ニーズの高い患者さんを多く引き受けている。

2000年代、よくこんなことが起こった。寝たきりで在宅療養をしているある患者さん。気管に挿入した管の交換するため、医師を呼ぼうにも、医療過疎地域のためなかなか来てもらえない。管の交換は医療行為のため、医師の指示なしに看護師は行うことができず、結果として、管の交換をするために毎月通院する必要があった。冬は路面が凍結するので車での通院は大変で、ようやく病院にたどり着いても2時間待ち……。樋口氏は、何度もこういう事態に直面していた。「看護師としてできることが増えれば、在宅のまま対処できるのに」と。

局面が変わったのは2015年のこと。医師にしか認められていなかった医療行為の一部(特定行為)を、自らの判断で行える看護師を育てるための研修制度がスタートしたのだ。樋口氏は「患者さんの負担を減らしたい」という一心から、特定行為研修を活用した大学院のNP(ナース・プラクティショナー)コースを修了した。

在宅で膀胱ろうのカテーテル交換を行う

在宅療養の患者さんや家族にとって、特定行為も行える看護師の存在は心強い。膀胱ろう・胃ろうなどのカテーテル交換や床ずれの処置、投薬量の調整などを、患者さんの状況に応じて在宅で行える。的確な判断で、緊急受診・入院に至らずに済んだこともあった。「樋口さんのおかげで不安が軽くなった」と利用者は感謝する。

NP先駆者として次の頂へ

チーム全体のスキル向上にも取り組む

樋口氏が訪問看護ステーションを立ち上げたのは、恵み野病院循環器呼吸器病棟に配属されたとき、入退院をくり返す患者さんの多さを目の当たりにしたことがある。看護師の退院支援が不足しているのか、自身の知識不足なのか。考える日々が続いた。そして地域全体を俯瞰する目をもちたいと、保健師資格を取得。その後、地域医療連携室で入退院支援に携わっていたとき、訪問看護サービスの必要性を痛感する。“だったら自分が立ち上げよう”と一念発起した。

樋口氏は地域包括ケアの質向上のため、訪問看護連絡協議会の立ち上げや、疾病予防の啓発活動にも取り組む。また、新型コロナウイルス感染症に対しては、早期から有志による感染対策ボランティアチームを立ち上げ、感染予防の研修を重ねるなど正しい情報の普及に尽力した。「まだ制度化されていないナース・プラクティショナーの実現に向けて力を尽くしたい。現行制度では対応できないニーズに応えていくことができれば」と話す。訪問看護におけるNPの先駆者として、樋口氏の挑戦は続く。